

行政調査報告書「まちづくり推進特別委員会」

平成 19 年 10 月 2 日(火)～ 4 日(木)

栃木県宇都宮市『うつのみや表参道スクエアについて』



当施設は、平成 6 年 7 月に再開発準備会が設立され、平成 19 年 7 月にオープンした。8 階建ての当施設の中には、美と健康を主眼に置いた商業施設、市民プラザとしての市の窓口サービス、市民活動・交流の場、市民ギャラリー等の情報受発信機能として活用されている。災害に強い共同建物に建替え、公共施設とオープンスペースを確保することにより、安全で快適な都市環境を再生し、人口の流出に歯止めをかけることに期待がかかる。

長野県長野市『TMO(株)まちづくり長野について』

前タウンマネジャーである服部年明氏から自らテナントの配置等をコーディネートした「ぱていお大門」を案内していただいた。ぱていお大門は、土蔵造りの商家や蔵・中庭を持つ空き家などの住時の面影を生かし、飲食やショッピングを楽しめるように、回遊性のある路地空間でまちが生きるように設計されている。他にも戦略的中心市街地の活性化と商業の再生を目指し、まちづくり会社を十分に活用し、TOMATO 食品館やもんぜんぷら座などの大型空き店舗や喫茶店を再生させている。現状の建物、施設を上手く整備し、できるだけ予算をかけずに開発すること、さらに民間と行政とのパートナーシップの重要性など多くの意見をいただいた。



埼玉県越谷市『越谷レイクタウンについて』

全体計画についてUR都市機構の埼玉東部開発事務所長と事業課長より説明を受けた。湖畔と街を造るということで、総合治水対策特定河川事業の手法を取る大相模調整池事業を含み、JR新駅「越谷レイクタウン駅」を中心に総面積約 226ha、総工費約 897 億円、計画住宅個数は約 7,000 戸、人口約 22,400 人と壮大なスケールである。

次いで、大和ハウス工業株式会社が進めるタウン開発について、同社東京支社マンション事業部の方から説明を受けた。開発対象区域は、新駅のすぐ西にあたる 2 つの街区である。1 つは、戸建街区



で開発面積約 32,600 m²、1 区画が約 180 m²の 132 区画。全戸オール電化で、街路は全て無電中化を計画されている。もう 1 つは、分譲マンションで敷地面積約 20,700 m²で総戸数が 500 戸。屋上にソーラーパネルを設置し、太陽熱を利用した温水を貯蔵すると共にその温水を供給する。また、各戸に床暖房システムが設置されている。大型スーパーが建設される予定もあり、利便性もよい。環境に配慮した住みやすい街「環境共生先導都市」を目指す大きな事業であった。